

この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。											
章	項目	品質 性能 試験方法									
3防水改修工事	アスファルト防水	〈乾式保護材〉 (品質・性能)									
		分類・規格		・窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類 (寒冷地仕様)	・窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類 (一般地仕様)	・金属複合板					
		寸法(mm)	厚さ(mm)								
		寸法の許容差		厚さ：+10%、-5%、・幅：±1%							
		出荷時の含水率		出荷時において10%以下							
		曲げ強さ・曲げモメント (N・cm) (h/100cm)	標準時	550以上	450以上	300以上					
		凍結融解完了時 における単位幅1cmあたり の曲げモメント	凍結融解完了時 (試験サイクル数)	400以上 (300)	320以上 (200)	250以上 (300)					
		吸水率(%)	20以下		20以下	1以下					
		吸水による長さ変化率(%)	0.07以下		0.07以下	0.01以下					
		難燃性	不燃		不燃	表面材は不燃					
耐凍結融解性能	曲げ強さ、モメント凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと										
耐衝撃性能	質量500g(窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、表面に達する穴があかないこと。		質量500g(窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、表面に達する穴があかないこと。	残留変形量1/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下 80,000N・cm2以上							
剛性(E×1/8)h×40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性	-		-								
4外壁改修工事(共通事項)	可塑性エポキシ樹脂	(試験方法)									
		(1) 寸法の試験方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてバ Ⅰ Ⅱ 類の厚さとする。									
		(2) 曲げ強度試験は、JIS A1408「建築用バ Ⅰ Ⅱ 類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、100, 200, 300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。(窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類は200サイクルまでとする。)									
		(3) 吸水率試験は、JIS A5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。									
		(4) 難燃性試験は、JIS A1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。									
		(5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K8123「塩化カルシウム(試験)」に規定する塩化カルシウム又はJIS K1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するカルシウムで調湿したデシカトルに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつマイクロメータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。48時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。 ΔL=(L2-L1)/L1×100 ΔL: 吸水による長さ変化率(%) L1: 乾燥時の標線間の長さ(mm) L2: 吸水時の標線間の長さ(mm)									
		(6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A5424「窯業系セメント」の気中凍結水中融解法によって行う。100, 200, 300サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(窯業系バ Ⅰ Ⅱ 類は200サイクルまでとする。)-20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。									
		(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A1408「建築用バ Ⅰ Ⅱ 類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単軸支持方法による。試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅30mm)とする。おもりの記号(W1-1000又はW2-500)とする。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。									
		5建具改修工事(共通事項)	可塑性エポキシ樹脂	〈可塑性バ Ⅰ Ⅱ 類〉 (品質・性能)							
				項目		品質・性能					
比重	表示値：±0.10										
押出し性	60秒以下										
スランプ	3.0mm以下										
加熱減量	5.0%以下										
常温物性	引張強さ			1.0N/mm ² 以上							
	伸び			30.0%以上							
	引張接着性			最大引張り応力	1.0N/mm ² 以上						
	破断時の伸び			10.0%以上							
6既製調合モルタル	既製調合モルタル	低温性	引張強さ	1.0N/mm ² 以上							
			伸び	30.0%以上							
		加熱劣化	引張強さ	1.0N/mm ² 以上							
			伸び	30.0%以上							
		その他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 3) 常温・常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6か月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。								
		(試験方法)									
		イ) 試験室の状態：試験室は、特にことわりがない限り、温度23±2℃、湿度50±5%とし、標準状態とする。									
		ロ) 試験体の作り方：試験室に保管した主剤及び硬化剤を、適切な容器に製造所の定める割合で採取し3分間十分に混練する。試験体個数は、3個とする。									
		ハ) 比重：JIS A1439「建築用シリカ」材の試験方法」の5.11による。									
		ニ) 押出し性：JIS A1439の5.14(試験用カトリッジによる押出し試験)による。									
ホ) スランプ：JIS A1439の5.11による。											
ヘ) 加熱減量・加熱減量試験は、下記による。											
1. 試験器具は、次による。											
(1) 時計皿：直径75mmのもの2枚。											
(2) 恒温器：JIS K6257「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム熱老化特性の求め方」の4.3試験方法の表1に規定する促進老化試験法のAA-2強制循環形熱老化試験機(横風式)(付型式老化試験機ともいう。)又はこれに準じた装置。											
(3) はかり：ひょう(秤)量200g、感量1mgのもの。											
2. 試験方法											
2枚の時計皿の質量(M0)を測定する。次に一方の時計皿にへらなどを用いて試料を直径約60mm、厚さ約2mmになるように塗りつけ、残りの時計皿でふたをして、直ちにその質量(M1)を測定する。ふたを取り除いて、標準状態に14日間静置し、更に80±3℃に調節した恒温器中で336時間(14日間)加熱する。加熱後、恒温器から取り出し、標準状態に4時間静置し、再び残りの時計皿でふたをして、その質量(M2)を測定する。											
加熱減量は、次の式によって計算し、平均値で表す。											